

資料 2

2. 下水道ビジョンについて

2.1 公表用冊子について

2 下水道ビジョンについて

2.1 公表用冊子について

はじめに「基本理念」と「基本方針」を見開きで掲載します。

3つの基本方針
について

基本理念は、

「みんなでつくり 未来につなぐ水の環 下水道」

本市は、生活環境の改善及び公共用水域の水質保全並びに雨水による水害対策を目的とし、昭和49年度から下水道事業を開始しました。

平成5年度には、一部区域において汚水処理が可能となり、その後も計画的に整備を進めてまいりました。

本市人口における下水道使用可能区域の人口割合を表す下水道普及率は〇%（〇年〇月現在）となっており、国の普及率〇%（〇年〇月現在）と比較してもほぼ同等の割合となっております。

令和7年度には計画している下水道施設の整備が概ね完了し、これまでの整備の時代から今後は維持管理の時代へと移っていくこととなります。

新たな課題としては、施設の老朽化対策、気候変動や大規模災害への備え、将来的な人口減少や水需要の減少への対応などが生じてきています。これらの課題を乗り越え、安定した下水道事業の運営を実現することで、次の世代の暮らしを守っていく必要があります。

本市下水道事業の新たな時代における指針として本ビジョンを策定し、「みんなでつくり 未来につなぐ水の環（わ） 下水道」の基本理念のもと、安心して安全な下水道を安定して持続できるよう事業を進めてまいります。

<基本理念に込めた思い>

下水道は、地下に埋まっていて目に触れる機会がほとんどないため、普段の生活の中で意識されることは少ないかと思いますが、下水道は生活になくてはならないライフラインなのです。雨で急激な水分降、山に雨を降らせて川をつくり、水道施設を通して管線のもとに届けられ、使われた水は下水道施設を通して川へ放流され再び戻ってきます。この水の循環の中で、下水道は重要な役割を担っています。無計画な進める本市の下水道事業において、今後はその必要性・重要性をより理解していただくながら、みなさまとともにそのあり方を考え、水の「循環」や水に係る快適な「環境」を次の世代へつなぐ行かなければならないとの思いをこの基本理念に込めています。

例：下水道協会資料

私たちは基本理念を実現するため、3つの「安」を基本方針とします。



みなさまの「安心」な暮らしのため、排出される汚水を適切に処理し、生活環境の改善及び公共用水域の水質保全を図ることで、衛生的な水環境を創造・維持していきます。

基本理念



今後見込まれる人口減少や水需要の変化などで財政状況がますます厳しくなっていくことが予想される中で、経営基盤の強化を回り、持続可能で「安定」した下水道サービスの提供を行います。



これから必要になってくる施設の老朽化対策とともに、自然災害などによる被害を最小限にするため、ハードとソフトを組み合わせた取組を効率的に実施し、みなさまの「安全」を守ります。

この基本方針のもと、「現状と課題」に対する「施策と取組」について検討しました。

ビジョン策定の経緯や基本理念に込めた思い

施策体系図を整理し、目次として活用します。

今回は部分的にお示します。



第3章 下水道ビジョンの趣旨と位置づけ P.O～		資料編	
下水道ビジョン策定の趣旨	P.O	用語集	P.O
下水道ビジョンの位置づけ	P.O	…	P.O
下水道事業とSDGs	P.O		
計画期間	P.O		
下水道ビジョンの推進	P.O		

第1章は、安城市下水道事業における「現状と課題」を記載します。

人口減少
について

1.1 厳しい財政状況

現状 独立採算制の原則に基づく経営ができていない

下水道事業は、地方公営企業法などにより「独立採算制の原則」が定められています。これは、雨水処理に要する経費など公費（税金）で負担することとされている費用を除き、汚水処理に要する経費については、下水道事業に伴う収入である下水道使用料で賄う必要があるという原則です。

本市の下水道事業は、下水道使用料で汚水処理費を賄っておらず、不足分を一般会計からの繰入金により補っている状態となっています。

経費が回収できていることを示す100%以上にする必要があります。直近3年間では、68~69%で推移しています。

【経費回収率（%）】
使用料で回収すべき経費（支出）を、どの程度使用料（収入）で賄えているかを表した指標

安城市下水道事業の経費回収率が低い理由として、以下の3点が挙げられます。

- ポンプ施設の維持管理費が多い**
安城市は地形的に平坦な場所が多く、自然流下で汚水を処理場まで運ぶためにはポンプが必要となります。そのため、各地にポンプ施設を配置しており、その運用管理費が多くなっています。
- 下水道使用料を見直していない**
安城市では、下水道使用料を一度も見直しておりません。当初設定した下水道使用料は、繰越してもらったことを優先しているため、適正な使用料よりも安く設定されています。
- 物価上昇の影響の増大**
我が国では、毎年のように物価が上昇しており、以前よりも燃料費や材料費などの価格が高騰しています。本市ではポンプ施設が多いため、その影響は大きいです。また、下水道使用料は当初のままであるため物価上昇分の価格が反映できていません。

課題

- ・下水道使用料の適正な設定
- ・下水道使用料の確保

財政状況
について

1.2 人口および有収水量の減少

現状 人口減少及び節水社会に伴う有収水量*の減少
*使用料徴収の対象となる水量

現在、安城市人口の実績は減少傾向に転じています。将来の推計として安城市の人口ビジョンでは、令和5~9年度は微増となり、ピークとして189,661人に達する想定をしています。その後、年々減少し続けるものと整理されています。

人口減少の影響は、汚水量の減少にも繋がっており、その結果、下水道事業の経営悪化が懸念されます。

さらに、節水型社会の進行も顕著となっています。厚生労働省の予測（右図）によると、近年、節水機器の普及や節水意識の定着等により使用水量が減少しており、現状では、約220L/人/日となっています。その後、2100年ごろには生活用水道原単位は、200L/人/日まで減少すると予測されています。

人口減少は、汚水量の減少以外にも影響することが考えられます。安城市の下水道課は、現在20名の職員で構成されています。現在は、人的リソースが業務量に対して適当な状態です。しかし人口減少により、そもそも働き手が少なくなると、将来的には事業の運営が滞ってしまう可能性があります。

- 業務負担の増大**
職員不足により、業務負担が増大することが考えられます。また下水道課としての業務は、ストックマネジメントなどの新たな事業への対応や業務のデジタル化など多様化しており、今後業務の負担はさらに増していくことが予想されます。
- 技術継承の遅延**
職員の平均年齢は38.2歳となっており、現状20代職員が最も多い状況ですが、どの年代もバランスよく配置されています。しかしながら、人口減少によりこのバランスが崩れ若い人材が少なくなると、技術継承が遅延する可能性があります。

課題

- ・下水道使用料の確保
- ・業務負担の効率化及び軽減
- ・計画的な技術継承の推進

第1章
第2章
第3章
第4章

第2章は、安城市下水道事業における「施策と取組」を記載します。

下水道の未普及対策

基本方針① 安心できるきれいで快適な暮らしの創造

施策1-A 市民への啓発活動の実施

12 継続

▶ 背景

住民の下水道への理解、興味関心について

今回実施した安城市下水道事業に関するアンケート調査の結果から、市民の皆様への関心がある程度あることが確認できました。しかしながら、下水道の知識や情報をお持ちの方は、多くありません。その理由として、下水道の特性上、一般の人が下水道の施設を目にすることは少なく、汚水処理の状況やその恩恵、下水道がないことの不便さ等がわかりづらいことが挙げられます。

そのため、今後も事業を継続していくためには、市民の民様に下水道について理解していただく必要があります。

▶ 具体的な取組

下水道に接する機会の創出

出前講座、イベント参加など市民の皆様へ下水道と接する機会を設け、下水道事業の取組みを少しでもご理解いただけるよう努めます。

市民の方に、直接、下水道事業についてお話できる場、ご意見をいただける場を設けることで、皆様の声を反映した下水道事業を目指します。

情報発信の強化

事業経営の状況などをより広く理解していただくため、今後も広報の充実を努めます。

また、広報だけでなく利用者の皆様に情報提供するため、ホームページにて下水道事業についての情報発信などにも努めます。

▶ 目指すべき指標

指標	現状（令和4年度末）	目標（令和16年度末）
市民への啓発活動の実施回数	4回/年	5回以上/年

施策1-B 下水道の未普及対策

3 持続 6 普及

▶ 背景

下水道の整備の状況

安城市では現在、「安城市汚水処理構想（令和4年3月）（以降、構想という）」に基づき、下水道の整備を進めているところです。

この構想では、最終的な整備面積を2,711haとしており、令和4年度までに2,502haの整備が完了しています。この整備状況として、愛知県全体と比較して、同水準となっています。

現在の予定では、令和7年度までに整備が完了します。これに向けて引き続き取り組んでいく必要があります。

▶ 具体的な取組

下水道の計画的な整備

事業計画区域内を継続して促進し、未普及地区の皆様いち早く下水道サービスを提供できるよう、計画的な下水道整備に努めます。


▶ 目指すべき指標

指標	現状（令和4年度末）	目標（令和16年度末）
下水道接続による汚水処理率	76.3%	今後設定予定
下水道処理人口普及率	82.6%	84.2%
下水道接続率	92.4%	今後設定予定


市民への啓発活動の実施

各項目の間などに、オリジナルキャラクターの会話形式によるわかりやすい解説などを挿入します。


安城市下水道公式キャラクター紹介



おていさま
皆さん、はじめまして。
おて様は、安城市の下水道のぬし、おていさまです。
今日も皆が流した汚れた水をキレイにしているよ。
安城市の下水道のことなら、おて様にまかせろ！




ようせいちゃん
こんにちは。
私は、安城市の水辺に棲んでいるちょっとおませなタニシの女の子です。私たちタニシも安城市のため池や用水の浄化に一役かっているのよ。
私たち水辺の住民にとって、水の環境は死活問題なの。
みんなで一緒に安城市の下水道のこと勉強しましょう！




たにしくん
おっす！
おいらはタニシの男の子たにしくんです。
ご飯は残さず食べてます。うんちもたっぷり出してます。
環境とか難しいことは、よく分らんですけど、そこはまあひとつ、よろしくですわ。


経営基盤の強化




有収水量の減少、厳しい財政状況、施設の老朽化は、どんな影響があるの？




人口が減って、有収水量が減れば、当然使用料収入も減ることになる。施設の老朽化が進めば更新工事に莫大な費用がかかる。支出が増えて、収入が減っていけば財政は厳しくなって、下水道の維持や管理に必要なことができなくなってしまうことになる。



じゃあ、一体どうしたらいいのかな？



財政状態を良くして、経営を安定させるためには、まず支収入を増やすこと。下水道を使う人には早く接続してもらうこと。また主な収入源である使用料を適正な金額に見直すこと。使用料以外にも財源を探していくことも考えていかねばね。
それから、もう一つ支出を減らすことも大事だ。まず、建設のためにした借金を返すことも忘れてはならないし、近隣の市町とも協力して、同じような仕事は地域で共同して行ったりして費用を減らす工夫も大事だな。



借金のご利用は計画的に。
何事もバランスが大事よ。